

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	岩手県立大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	イワテケンリツダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	総合政策学部
	担当教職員名・役職	インターンシップ部会教員、キャリア教育担当教員、インターンシップ担当職員
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	7
	受入企業等数	169
	受入企業等名	東北圏内に事業所がある企業等(ポータルサイト『インターンシップin東北』https://tohoku-is.jp/ に掲載企業及び自己開拓企業等)
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,4.他県をまたぐ広域インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ,6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業等のサービス向上のための現状分析・改善策の立案を行い、社員の前でプレゼンテーションを行う等
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している,6.当該インターンシップは、選択科目として実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次・3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	豊かな教養と実践的な専門知識を有し、社会において有為な人材となりうる就業力を涵養することを目的として、1年次必修の「キャリアデザインⅠ」で培った基礎的能力を、より実践的に発展させるため、企業・公的機関・NPO等での就業体験を行う。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ実施前、実施中、実施後のいずれであっても連絡・相談ができる体制を整えている
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全3回の事前学習では、インターンシップ部会教員と本部教職員が、インターンシップの趣旨や目的の理解、ビジネスマナー研修、インターンシップ中の目標設定等を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	全4回の事後学習では、インターンシップ部会教員と本部教職員が、就業体験と自らの学びがどのようにつながったのかを振り返り、成果や意義を確認するとともに、他者と共有することで、体験の深掘りを行っている。また今後の学生生活における行動計画を立て、最終的に研修成果報告書を作成している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生向けには、インターンシップ実施前、実施中、実施後のいずれであっても連絡・相談ができる「インターンシップなんでも相談ダイヤル、相談メール」を開設し、都度対応している。企業、学内へは「インターンシップ緊急連絡網」を整備し対応。また、適宜実施中に教職員が視察に出向き、学生の状況やインターンシップに関する意見交換等を行っている。
要素	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	

④	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	実施後の評価シートについて、企業にも同じ項目で評価をしてもらい、自己評価と他者評価を比較することができるようにしている。また、どのような学習機会となったのかを尋ねるアンケートを実施している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している。3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	ポータルサイト『インターンシップin東北』 https://tohoku-is.jp/ で紹介している 地元企業や官公庁、また県外企業において5日間以上のインターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。7.その他
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	大学が、企業の声等をもとに「企業と大学をつなぐインターンシップ活用ガイドブック」を制作し、全受入企業に配布している。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	各自治体と協働して、管内企業を対象に、大学が制作したガイドブック等をもとにプログラム作成や教育的関わり方の研修会等を行い、必要に応じて個別に企業および地域コーディネーター等の相談に乗り、協働でプログラム設計を行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	『シラバス』 https://upa.iwate-pu.ac.jp/up/faces/up/km/Kms00802A.jsp 『インターンシップin東北』
問い合わせ先	大学等名	岩手県立大学
	担当部署名	学生支援室 キャリアセンター
	担当者役職名	インターンシップ担当
	担当者氏名	
	電話番号	019-694-2020
	メールアドレス	ipu-syusyoku@ml.iwate-pu.ac.jp